

令和6年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立石薬師小学校		NO. 1		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係評価
学力向上×ICT活用	1 授業改善・学力向上 ・協働的な授業展開 ・デジタル教科書や様々なアプリ、映像等を活用した授業で意欲向上、学び合いを推進する →アンケート「学習はわかりやすいですか。」 積極的肯定割合 R5:53% → 60% →学調・みえスタ結果 全教科県平均以上 2 児童のChromebookを日常的に活用する ・1年から6年まで学年に応じてスキルを身に付ける。 →各クラス毎日1回以上端末を使用する。 3 家庭学習の定着・学習ボランティアの活用 ・家庭学習の充実、自主学習指導 →アンケート「家で宿題や勉強をしていますか。」 積極的肯定割合 R5:77% → 全学年80%以上 ・学習ボランティアの活用→学習ボランティア数と内容 4 読書活動の活性化 ・学級文庫の充実・巡回指導員の活用 →アンケート「読書は好きですか。」 積極的肯定割合 R5:79% → 80%	1. 「学校の勉強はわかりやすいですか」の積極的肯定割合が72%となったことは成果と考えられる。学力調査結果については、5年国語・算数、6年国語は県平均以上を達成、他の学年・教科はわずかに及ばなかったものの、昨年比は向上している。 2. 端末はほぼ毎日活用できており、今後も継続が期待できる。端末を使った視覚的支援で、興味関心を引きやすくなってきている。 3. 「家で宿題や勉強をしていますか」の積極的肯定割合は、学年によって未達成となっている点が課題である。 4. 「読書は好きですか」の積極的肯定割合は54%と低い。肯定割合も76%で、読書については課題が残った。	・引き続き授業改善を行い、非認知能力の育成も図りながら学力の定着を目指したい。具体的には、誰一人として取り残さないよう、発問や課題を工夫していく。また、端末活用が進んでいる点を学力の定着につなげていきたい。 ・家庭学習に課題があるので、今後も積極的に働きかけを行い、保護者の協力も仰ぎながら進めていきたい。 ・読書活動はこれまでも積極的に授業で図書館を活用しており、図書の出冊数も増えている現状から、本が嫌いというわけではないようなので、今後も継続して読書活動を推進していきたい。 ・図書館巡回指導員さんが積極的に本の紹介や読み聞かせをしてくれているので、今後も来校日に授業での活用を進めていく必要がある。	・勉強がわかりやすいですかの肯定割合が増えていることは、先生方の研鑽の賜物であると評価できる。 ・家庭学習については、どの様に働きかけるのか？保護者の協力をどの様に進めるのか？を具体的に次期活動の指標としてはどうか。 ・家庭へのアプローチの仕方を来年度課題として学校運営協議会でも議論していきたい。 ・ICT活用は今後社会に出た時に必要だとは理解できるが、物事を理解する、記述する等の基本的な事も大切にしてほしい。 ・他校とは違って、毎週水曜日の朝の読み聞かせボランティアさんが来ていただける環境があるため、子どもたちの読書への興味関心が高いと感じている。授業でも読書の時間を取り入れるなどして、読書好きが増えていくことに期待したい ・積極的肯定の目標80%にはいかなかったが、日々の積み重ねなので来年再来年には良い結果になると期待している。
	1 安心して過ごせる学校環境づくり ・気軽に相談できる雰囲気作りや、教室内の環境整備 →アンケート「学校に行くのは楽しいですか」 否定的回答割合 R5:14% → 10%未満 2 SCや相談機関とつなげてきめ細かな支援を行う ・スクールカウンセラーを活用した児童支援 →30日以上欠席人数 0人を目指す	1. 「学校に行くのは楽しいですか」の否定的回答割合は12%と課題が残ったが、1学期よりも減少している。 2. スクールカウンセラーの支援により昨年欠席日数が多かった児童は、早退するものの登校できているようになってきた。12月末現在の欠席日数は27	・担任以外の教職員にも気軽に相談できる雰囲気を感じてもらえるような働きかけを、これからも継続していき、互いの情報共有しながら児童一人ひとりの様子を見守っていききたい。また、今後もスクールカウンセラーをとの連携を密にしなが	・担任の先生以外やスクールサポーターにも気軽に相談できる環境を引き続き整えてほしい。 ・学校へ行くのが楽しくないと思っている子には何らかの利用ウがあると思われるので、一人ひとりに対してきめ細かな支援を継続していつてもらいたい。 ・長期欠席の減少に向けての取り組みは今後も継続をしていただく事が望ましい。
地域連携	1 「信綱カリキュラム」の活用 →朝の朗唱をボランティア活用 →短歌づくりを全学年で行う 2 地域学習・キャリア教育 →地域人材の活用、石明協と連携したボランティア活用	1. 毎週火曜日の朝の朗唱が続き、短歌づくりも定期的に行うことができた。鈴鹿市文芸賞や顕彰会歌会での入選も多数輩出できた。 2. まちたんけんや昔のくらしの学習など、多くのボランティアさんから学ぶことができた。	・今年度、読み聞かせボランティアさんは新規獲得できたが、全体的に高齢化が進んでいるので、今後も引き続きボランティア募集を続けていく必要がある。その際は、学年通信や学校だより等で、積極的に呼びかけを行う必要がある。	・石薬師小学校ならではの佐々木信綱、短歌を紹介する集会も子どもたちがワクワクしながら自分の短歌が選ばれたら嬉しいと頑張る子が多いと感じた。 ・参観の度に子供達の短歌を読むのが楽しみ。言葉力の向上にも良い取り組みであると思う。 ・ボランティアに関しても、メール配信等で呼び掛けていただければ参加してくれる保護者も増えると思うのでぜひ取り組んでいただきたい。
	1 研修主題に非認知能力の育成を掲げる ・「やりぬく力」「社会性」に重点を置いた授業展開を工夫する ・すべての学年で公開授業を行い、全教職員で事後検討を行う 2 「ほめて伸ばす」を意識した取組の実施 ・04thの「いいとこみつけ」を活用し、日頃の声掛けだけでなくフィードバックを行う →アンケート「自分にはよいところがあると思いますか。」 積極的肯定割合 R5:56% → 60%以上	1. 成果として、非認知能力4項目すべてで昨年よりも向上した。 2. 「自分には良いところがあると思いますか」の積極的肯定割合は51%で、前年度より下がった点は課題である。目に見えるフェードバックの取組をこれから行うところである。	・来年度の研究発表に向けて、「やりぬく力」の向上を目指していきたい。 ・「ほめて伸ばす」取組として、ポジティブメッセージカードの取組を進め、来以降につなげていきたい。	・学校での取り組みを学校通信、学年だよりなどで引き続き紹介していただきたい。 ・読み聞かせボランティアさんも「非認知能力を豊かにする本」を積極的に読んでくださっている。 ・メッセージカードを読んでいると、大人でも温かい気持ちになる。カードがあることにより、悪い部分より良い部分を自然と探そうとする空気になり、やがてそれがカードがなくなると当たり前になるという事を目指して取り組みを継続してほしい。